



【めざす生徒像】

- 『友愛』 他人に思いやりを持ち、ともに高め合う生徒 【社会の創り手となる生徒の育成】
『礼節』 礼儀と節度を守る生徒 【他者を価値のある存在として尊重できる生徒の育成】
『協力』 力を合わせ、よい校風をつくる生徒 【多様な人々と協働できる生徒の育成】

【学校教育目標】

生徒一人一人が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら豊かな人生を切り開く力を育み、社会の作り手となる生徒を育成する。



年の瀬もいよいよ押し迫り、何かと忙しい時季となってまいりました。保護者の皆様におかれましては本年も本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございました。これからますます寒さ厳しい季節がやってきますが、どうぞお体にお気をつけてお過ごしください。

"Try and Error" (トライ・アンド・エラー) から "Try and Learn" (トライ・アンド・ラーン) へ

Try and Errorは日本語では「挑戦」と「失敗」や「試行錯誤」などと訳されます。何かを試して、うまくいかなかった場合に原因を分析し、改善策を考えながら繰り返すプロセスを指します。

一方、Try and Learnは「挑戦して学ぶ」という意味です。何かを試していくことで、新しい知識やスキルを獲得し、成長していくことを表します。失敗も学びの一部としてとらえ、積極的に挑戦していくことの重要性を示しています。

ただ、大人でさえうまくいわずに挫折してしまうこともあります。まだまだ成長途中の子どもたちであれば、なおさら思うようにいかないことの方が多いのではないのでしょうか。そんな時、周囲の大人は、つい口を出してしまいます。しかし、より子どもたちの成長を願うのであれば、次のようなことに気を付ける必要があります。

- ・子どもの興味や関心を尊重し、努力が報われる過程を身を持って学ばせる。
- ・失敗は成功のための準備段階であり、決して恥ずかしいものではないことを理解させる。
- ・Try and Learnは、主体性の中で養われる。子ども自身の行動力や自律性を尊重する。
- ・大人からは、視点を拡大させたり、可能性に気づかせるようなアドバイスを送る。

どうしても、子どもが疲れてしまった場合には、パワーを充電する場所として身近な大人の存在が必要です。ゆっくりと疲れを癒してやってください。知らず知らずのうちに、またチャレンジを始めていくと思います。

『私は失敗したことはない。うまくいかないやり方を一万通り見つけただけだ。』

Thomas Alva Edison (トーマス・エジソン) アメリカの発明家 1847-1931

この言葉はアメリカの発明家として知られるトーマス・エジソンのもので、エジソンは生涯におよそ1,300もの発明と技術革新をしており、代表的なものに蓄音機・映写機・蓄電池などがあり、世の中に存在しないものを新たに作り出してきました。また、エジソンが白熱電球の実用化の際に、京都府八幡市産の真竹をフィラメントの素材として使用したのは有名な話です。エジソンのすごいところは、成功するまで繰り返し続けたことでした。白熱電球の研究では、およそ1万回の実験(※諸説あり)の末にやっと成功まで辿り着いたのです。



学校の図書室にある「失敗図鑑」エジソンのエピソードも載っています

およそ科学者と呼ばれる人達は、目標にたどり着くために何度も何度も研究や実験を繰り返し行います。失敗はその過程で起きるひとつの出来事です。その失敗から次のステップが見えてくることもあるので、彼らにとっては絶対に必要なものなのです。エジソンの数多くの発明の裏側にはそれ以上の失敗があったのです。

私たちは、ついつい失敗を恐れてしまうものです。そのため、新しいことになかなかチャレンジできないということもよくあります。しかし、エジソンに言わせれば失敗なくして成功はないのです。失敗してこそ、自分の目標としているゴールに近づくことができるのです。

